

ひとむすび

発行日 令和6年5月

発行元 与謝野町社会福祉協議会

与謝野町社会福祉協議会では、子どもから高齢の方みんなが、住み慣れた地域でずっと暮らし続けられるよう、地域の支え合いを推進しています。支え合い活動が『新たに始まる』『これからも続いていく』『広まっていく』ことを応援するため、この通信で情報を発信していきます。

通信の名前の由来

『ひとむすび』ってなに??

人と人を**結**ぶ人と地域を**結**ぶ与謝野町の住民がひとつに**団結**する

こんな意味を含めて、この通信を

『ひとむすび』と名付けました。

社協も住民のみなさんと一緒に地域の支え合いを応援していきます！

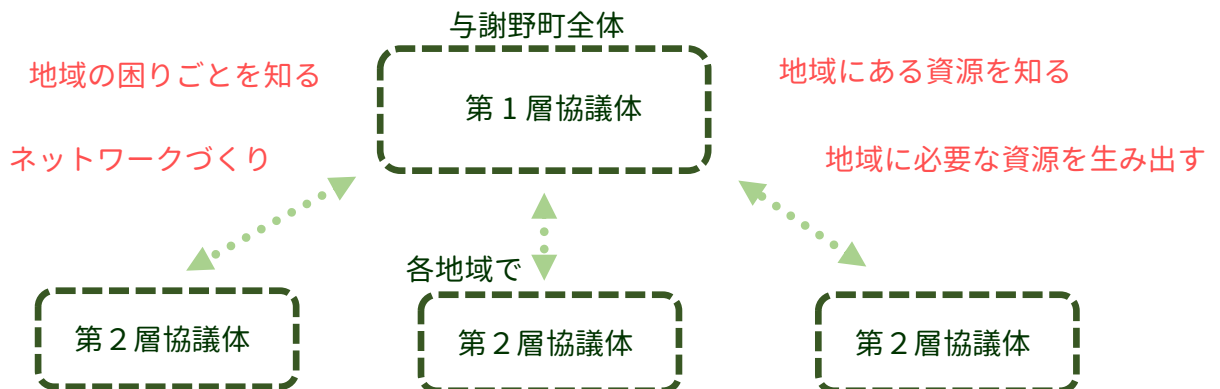
現在、介護保険サービスや行政サービスでは対応が難しい事例が増えてきています。安心して住み慣れた自宅で生活をしていくためには、**高齢者の社会参加**と、**地域での支え合い体制づくり**を進める必要があります。まずは、自分が元気であること、そして元気なうちから、たすけあう関係を作ることが大事です。

与謝野町では今後**協議体**を設置し、生活支援コーディネーターとともに地域のつながり、生きがいをづくり、高齢者の生活支援、介護予防を考えていきます。

きょうぎたい

協議体 = 地域で“お互いさまの支え合い”を作る話し合いの場

みなさんが住みなれた地域で安心して暮らせるように、必要なことは何かを考え、話し合う場です。生活支援コーディネーターや地域住民、団体、行政などが集まり、高齢者にやさしい地域づくりを目的に情報交換をしたり、支え手を増やすアイデアを出し合ったりと、皆さんの得意を活かして地域の支え合いの活動を組織的に支える役割をします。



生活支援コーディネーターの ながしまです。

地域の中での調整役を担います。

大切なのは地域住民が地域のことをみんなで話すことです！

地域の皆さんと勉強会を開始しました！

どなたでも参加いただけます！
お気軽にお問い合わせください。

加悦・岩滝・野田川の各地域で、生活支援体制整備事業の研修会やフォーラムに参加いただいた方を中心に、勉強会をしました。今後も数カ月に1回のペースで寄りあい、地域のことやお互いのことを知り、地域住民が助けあう関係づくり・仕組みづくりを話し合います。

加悦地域 “ひとりでするのでなく、一緒にするのがよい！”

- ▷『たすけあい』とはいっても、頼まれたことを全てひとりでするのでなく、一緒にその作業をするのがよいな。
- ▷親しい仲なら無料でもよいかなと思うけど、全然知らない人や依頼が多くなりすぎると一定の料金を設定するのがよいかな。
- ▷たすけてあげよう！たすけてもらおう！という気持ちになるには、まずは『顔が見える関係』を作らないといけないな。



一緒に趣味を楽しんでくれる人ー？

／ 草むしり、除雪を手伝ってほしい！ ／



「助け合い体験ゲーム」をしました

岩滝地域

“昔あった個人商店が、
お年寄りが集まる場所だったなー”

- ▷今は少なくなったけど、個人商店がいろいろと取り寄せてくれたり、お年寄りが集まる場所になってたけど、今では『居場所』をつくる時代になったんだな。
- ▷バス停にベンチが無いのが気になるな…
- ▷加悦地域の方は200円バスでウィルに行って、ご飯を食べて買い物して、楽しんでいるらしいで！

野田川地域

“お互いさまの助け合い”は理想！”

- ▷“お互いさまの助け合い”これは理想。現実是这样ではない。今は制度を利用して何とかなっている人も多いのかな。頼むことに抵抗もあるみたい。でもこれから制度も利用しづらくなったらどうなるんだろう？
- ▷困っているだろうことと、実際に困っていることが違う場合がある。本当に困っていることを引き出すのは難しいな…
- ▷次は、民生委員の方に高齢者の実情を聞いてみよう！



京都府より

今困っている高齢者に向けてできること、また、いつか高齢者になる未来に備えてできることを皆で考え、助け合うことの大切さを考えるきっかけづくりになるよう、各市町の現状や活動を総集した啓発動画を制作しました。与謝野町では、「地域の『わ』を拡げよう！ひとづくりまちづくりフォーラム」が紹介されています。

ぜひご視聴ください！

